

令和4年度 第2回学校運営協議会 議事録

出席者

協議委員：川村幸治、早坂三郎、渡邊哲朗、綿世良一、村井沢子（欠席…寺野雅之）
本校委員：藤原清隆、紙本享介、松井くみ子、野崎龍、西本敦史、大東央靖、國見将、
平岡克郭、木原義憲、下村真也、南花子、吉川力

1. 挨拶（校長）

新型コロナの中、文化祭を開催。3年生が盛り上げた。次は修学旅行がある。
なんとか無事に終わらせるようにしたい。
本日は運営委員が参加しています。

2. 本年度の進捗状況と来年度の学校経営計画について

①令和4年度の学校経営計画（進捗）

滞っているところは特にない。コロナの関係で実施できなかったところは少々ある。

*生徒の転学退学者が出ている。年度末にかけて出る様相がある。それをいかに食い止めるかに尽力する所存です。昨年転学退学者が多かったので、なんとか今年は減少させたい。

②令和5年度の学校経営計画（案）

*学年が二学年になることに応じて、令和4年度から修正点があります。

*部活動の活性化については、生徒数が少ないため無理がきている状況。

人数がいて正常に活動できている部活が、そもそも少なくなっている。

地域連携に関してはできるかぎり応えていきたいが、来年度部員ゼロになる部活が多い。

*学力の向上

生徒の学習習慣・・・自習室の整備、教員が生徒に個別指導を行える体制を厚くする。

わかる授業・・・成績不振での転学退学をなくす取り組みを今後もやっていく。

*生徒ひとりひとりの進路実現に向けた取り組み（進路部長より）

進路希望実現につなげる取り組みを継続・強化していく。

（縁故就職・フリーター・未定を除く）進路決定90%以上を目指す。

*教職員のコミュニケーション指導力の向上を図る取り組みを充実させる。

いじめ指導を念頭に、コミュニケーションに裏打ちされた生徒指導力を高める。

とにかく、いじめについて対応できるようにしたい。

*教員の育成・・・人権感覚をもった教員。人権教育ができる教員の育成。

*中途退学を減少させる・・・家庭とも密な連携をとった指導ができる教員組織をつくる。

- *生徒理解のための取り組みを強め、対応できる教員組織をつくる。
- *授業アンケートの肯定的回答率が高まっている。分析をすすめ、今後の取り組みに生かしていく。
- *生徒が、「茨田高校を卒業できてよかった」と思えるようにしたい。

③授業アンケート

- *昨年度に比べて数値はかなり上昇している。
8・9については、今までにない上昇をみせている。(目標に肉薄)
急激な上がり方について、分析が必要。＝不登校生とがアンケートに答えられていないこともありうる。安直な数値の理解ではいけないのではないかと考えている。

④進路状況（進路指導主事より）

例年は6割ほどが就職だが、今年度は進学希望が増えており、45.9%が進学希望（4大・短大・専修など）である。
就職 51.8%・・・公務員 2名。学校紹介就職 1次合格率 75%を超えている。
その他・未定は 2.3%。サッカー留学希望あり。

進学・・・指定校推薦が大多数。現在、結果待ちの生徒がほとんどである。
1名が4年制大学に合格。専修学校はAO入試がほとんど。

⑤教科書選定

サンプルをまた御覧ください。デジタル教科書も出ています。

<休憩>

3. 協議

テーマ：本年度の進捗状況と来年度の学校経営計画について

議長：川村幸治

- 協議委員の方々、ざっくばらんに疑問点などありましたらご質問をお願いします。
最後に私の方でまとめたいと考えています。

協議委員

- 自己肯定感をどうやって高めていくか。
小学校の校長時代に、どこがいいのか気づかせるために、簡単な項目をあげて自分のいい

ところを選ばせた。「気が付かせること」が大切。

「自己満足感と自己肯定感は違う」ということをわからせることが重要。

高校生になって自尊感情を問いかけていくのはいいが、自己満足と自己肯定を明確にわけて考えられれば、より深まった面白い分析ができるのかなと感じる。

- 今年１年生は、閉校になることがわかって進学してきている。覚悟をもって進学してきている生徒が多いのではないか。

協議委員

- 地域の方としては、茨田の生徒にはイベントごとなどで本当にお世話になっている。

部活動が下火になっているのは非常に残念。子どもの発達に部活動は非常に重要。どうしていくのか。

部活動の充実まではいかなくても、なにかしら部活動に繋げてほしい。自己肯定感を高めることにもつながるはず。やはり、部活動をなんとかしてほしい・・・。

協議委員

- 茨田の生徒は内気な子が多い。自分から行動する意思が少し弱いだけなのではないか。声をかけてあげて、２，３日引き込めばなんとか部活動にも繋げられるのではないか。

協議委員

- いじめアンケートについて

経営計画については、コミュニケーション能力向上をはかることで、いじめの早期発見につなげたいという意味が見て取れる。コミュニケーション＝いじめ対応ということか。アンケートは、いじめの実態をどこまで反映しているのかと感じる。

- コミュニケーション能力指標について

【自分から話しかける】の数値の低さは理解できる。他が高すぎるのはどういう理由か。

→１年生の印象（第１学年主任）

中学時代に不登校だった生徒が多い。サンプル数が少ない。覚悟をもって進学している生徒が多いのもあるのか

→面談をきっかけに生徒とのコミュニケーションを積極的にとる流れができたところはある。

- 生徒のコミュニケーションラインを増やすことは重要。効果的である。

- 自己効力感について

「自分のどんなところが好きか」

自分を好きになれるほど、他者を理解できるようになる。

コミュニケーション能力の醸成を通じて、社会に通用する基礎能力を身につけさせる。

「コミュニケーション能力向上はなんの目的か」をどう設定するか。その手段の選択の基盤は、「自分を好きになる」こと。学校は、その手立てについて何か情報提供をすることが重要かと思われる。

- 進路実現・いじめにも確実に影響があると思う。

議長

- 総じて、個別指導ができる体制、地域貢献など、全てに通じるのは「自己肯定感をいかに高めるか」である。

- 進路実現 90%超えるためにはなにが必要か。

→進路指導主事

「自己開拓」というのは、いわゆる「逃げ」ではないかと考えている。結局卒業まで進路が決められないことが多い。【自己開拓】をいかに減らすのが課題。学年・担任と進路部がコミュニケーションをとって対応する。担任・副担任だけにとどまらずいろんな先生からの声かけが、生徒にとって前向きになれるきっかけになる。

- キャリア教育で重要な部分は、「自分がどう生きるか」に行き着く。家庭環境からも影響がある。
- 学年として強い思いで「ここだけは」というところを決めて、進路部とタイアップしたり輪を広げて指導していくことが重要。生徒に関わることで生徒も自信をつけて、いろいろなところにいい影響がでてくると思う。
- 地域の人から声をかけられた生徒の気持ちを考える。いい気持ちになると思う。
- 部活動については、競技にとらわれない活動はどうか。今週はラグビー、来週はレクリエーションなどもアリだろう。

「サッカーボール蹴りたいから学校へ来る」それでもいいじゃないか。「なんかやってみようかな」という感性をくすぐってほしい。

- いじめアンケートからの対応も、コミュニケーションラインの一つである。
- 「生徒に寄り添う」というのは、「してあげる」と思いがち。何気ない会話でも十分。
- 「警察以外に家庭に入り込めるのは先生だけである。」という【気概】をもって、生徒に対応していただいたい。

4. 謝辞

毎日すれ違う生徒を見ていると「ええ子ばかりやな」と思う。日々の先生方の指導によるものだと思う。

コミュニケーションラインを増やすことが非常に重要であると感じている。